



ハタチの君へ

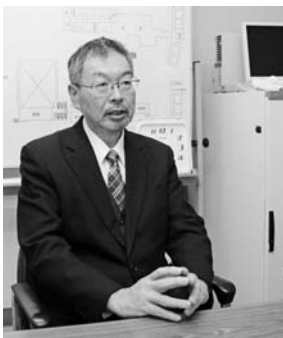
現在、大野東中学校で教師を務める荒木圭一教諭。昨年までは佐伯中学校で教壇に立ち、この日は成人式に出席する佐伯中学校卒業生へ向けたビデオレターの撮影。懐かしい顔を思い浮かべながらの撮影に、思わず笑みがこぼれます。今だからこそ伝えたいことがある。これから大人になる人に向けてのメッセージを聞きました。

担当していた生徒が大人になったとき、その成長に素直に驚きます。当時はなかなか話を聞いてくれなかった子どもたちがここまで成長したのかと感じるとき、教師冥利につきます。子どもたちが健康で、それぞれに活躍していることを風の便りに聞くこと。それが私にとっての財産だと、この年まで教師を続けてきてしみじみ思います。大人になることでさまざまな権利を持ちますが、それは同時に責任を負うということ。自分の行動が自分だけでなく、ほかの人にも影響を与えます。「立派な大人になれるように……」よく言われる言葉ですが、それぞれの思い描く理想はさまざまです。社会に存在するマナーやルール、それは個人を縛るものであると同時に相手への思いやりでもあります。まず、自分の周りにいる人を大切にしてあげてください。

企業勤めを希望しましたが就職することができず、就職浪人を経験し、20歳を過ぎて最初の挫折を味わいました。教師になったからも決して順風満帆な生活とは言えません。しかし、そういった何かうまくいかなかったときにこそ、初めて客観的に自分を見直すことができるのだと思います。やりたいと思ったことはとんやってみてください。それが、実を結ぶ人もいれば大きな挫折をしてしまう人もいます。これからは経験した人では、将来たどりつくことができるところが違うのだと思います。これから経験することは楽しいことばかりではないかもしれませんが、しかし、あなた方をこの年まで見てきた親や友人もいるでしょう。それは財産です。今度はあなたが誰かの輝く財産になれるように日々を過ごしていただください。



この日、撮影を行った成人式実行委員会の余越知佳さん（写真奥）と廣澤扶美さん（写真手前）。



あらま けいいち 荒木圭一 教諭（56歳） 平成18年～25年度まで佐伯中学校に在職。昨年4月から大野東中学校に赴任。教科は理科を担当。教師生活は今年で33年目。

平成27年成人式

生まれ、育ち、遊び、学んだこのまちで迎える新たな門出。成人としての決意を心に刻み、これからの人生を歩んで行くことを今ここに誓う。

とき 平成27年1月12日（祝）
ところ さくらびあ
対象 廿日市市に住んでいない場合でも、廿日市市の成人式に参加することができません（ただし、記念品はありません）。



たかだ・よういちろう 高田陽一郎さん（峰高）

Profile
宮内小学校、野坂中学校を卒業。成人式実行委員会メンバー。成人式当日、20歳を代表し「成人の誓い」をさくらびああステージで述べる

「おとな」ってなんだろう。あまりに当たり前の言葉。辞書を調べてみると次のようにあります。

おとな 「天・人」（天辞林）

- 1 成長して一人前になった人。一人前の年齢に達した人。
- 2 一人前の人間として、思慮分別があり、社会的な責任を負えること。また、その人を済ませた女子。
- 3 昔は、元服後の男子、裳着を済ませた女子。

辞書にはこうありますが、その定義は人それぞれ。20歳になれば飲酒・喫煙・選挙権など、さまざまな権利を手に入れます。しかし、権利を持つということは、その責任も同時に負い、「自立」することでもあります。時にはその自立も本人の努力だけではうまくいかないこともあるかもしれません。そんな時には親、家族、友人、職場、地域で応援する環境が大きな助けとなります。

まちの輝く原動力となる若い世代のエネルギー。そのエネルギーを支え、育てることも今後大切となっていきます。廿日市には1162人の新たな力が芽を出そうとしています。20歳は新たな出発点。支えてくれた人への「感謝」を胸に今スタートを切ります。